

# 平成 27 年度第 2 回 新潟市地域公共交通会議質疑要旨

## 1. 開催日時

平成 27 年 12 月 17 日（木）午後 3 時 00 分～午後 4 時 20 分

## 2. 会場

新潟市役所分館 6 階 1-601 会議室

## 3. 出席者（敬称略）

### 委員

新潟市都市政策部長 大勝孝雄

新潟県バス協会専務理事 高橋清吉

新潟県ハイヤー・タクシー協会専務理事 鈴木久夫

新潟交通株式会社 乗合バス部長 村山優樹

新潟市消費者協会会長 本多満喜子

市民代表（公募委員） 松川由人

国土交通省北陸信越運輸局新潟運輸支局首席運輸企画専門官 蝶名林幸雄

日本労働組合総連合会新潟県連合会新潟地域協議会事務局長 斎藤敏之

新潟県警察本部交通部交通規制課交通規制管理官 三五紀男

新潟市土木部長 大沢藤雄

### 事務局

新潟市都市政策部都市交通政策課

### 区役所

新潟市南区地域課

## 2. 議題

(1) 南区・区バス運行計画（変更）について

(2) 南区・月潟地区住民バス運行計画（変更）について

(3) 南区・乗合タクシー運行計画（変更）について

①南区・区バス運行計画（変更）資料、南区・月潟地区住民バス運行計画（変更）資料、南区・乗合タクシー運行計画（変更）資料、南区の公共交通の概要について（参考資料）に基づき南区地域課の説明

### ②質疑応答

（意見・質問）松川委員

- ・ 本からの抜粋であるが、よいコミュニティバスを作るには、役割を明確にすること、対象とする移動者、移動を把握すること、本格導入に先駆けて実証実験を行い認知度向上や効果の把握を行うこととある。

南区は人口密度が低い地域なので、コミュニティバスの役割となると限られた

需要となり、通学、通勤、買い物、通院にほぼ限られてくる。

- ・ 茨曾根ルート、大鷲ルート、白根さつき野駅ルート、乗合タクシーに乗ってみた。12時頃イオンを出て郊外へ向かう茨曾根ルートの第2便は、主婦たち11人が座席が埋まるくらい大きい荷物を持って乗っていた。この便は利用者ニーズに合致していると思った。

大鷲ルートは、区中心部を出発してずっと乗客が少なかった。大鷲小学校で小学生10人が乗り、数キロ走って全員降りた。その後、また大鷲小学校に寄って、小学生7、8人が乗り、2つ3つ先の停留所で全員降りて、その後はずっと空車の状態であった。

- ・ 以前から南区は、スクールバスと区バスの区分けが曖昧で、小学校のスクールバスがあるところと無いところがある。

今までの歴史的経緯もあると思うが、限られた予算で区民の利便性を確保しつつ、収支率を確保しようとする、通学需要はスクールバスに移行する、あるいはスクールバスを区バスに統合し、小学生には証明書を持たせてお金を払わなくてもいいようにするというようなことが出来ないものか。

- ・ 白根さつき野駅ルートの平成26年度上半期の大人利用者は208人ということで、1日1人程度しか乗っていない。

区中心部の能登バス停から新潟駅前までは、通勤定期で1か月27,300円かかる。同じ区中心部からさつき野駅前まで区バスを利用し、さつき野駅から新潟駅まで電車を利用した場合、JRの通勤定期と区バスの運賃は、平日のみの利用で、合計16,330円と1万円近く安い料金で新潟市内中心部まで通勤ができる。

区民がこういうことを分っていると、利用してもらえないのではないかと思う。

- ・ 通院で乗合タクシーを利用した場合は、いつ診察が終わるか分からないので、2時間前から1時間前に予約が出来るようになったのは、とても便利になったと思う。

乗合タクシーのチラシは、区役所やイオンのフードコートに取りやすいように置いてあったが、区バスの総合パンフレットについては、区役所から無くなっていた。また、イオンでの区バスのPRが不足していた。

タクシーに力を入れる一方で、区バスは心配だなという印象であった。区バスも引き続きPRを強化していただきたい。

#### ⇒ (回答) 南区地域課

- ・ 区バスのチラシが無かったということについては、再チェックして改善していきたい。
- ・ 南区の自動車分担率は83%となっている。通勤や日常生活で車に乗り慣れた区民の方々にどう公共交通利用を呼び掛けていくかが課題であるが、例えば区バスを利用して電車を乗り継いで区中心部から新潟駅へ行く方法もあると、地域のコミュニティ懇談会や自治協議会の部会などを通じて広めていただくなど、公共交通利用啓発に今後も取り組んでいきたい。

**(意見・質問) 本多委員**

- ・ 先日の新聞に、南区白根地区を循環する区バスぐるりん号という記事が載っていたが、ご説明いただいた路線の中で、どの路線にあたるのか教えてほしい。

**⇒ (回答) 南区地域課**

- ・ まちなか循環ルートは、先ほど説明させて頂いた区バスとは違うもので、別のルートを社会実験として運行している。

参考資料の9ページに記載させていただいたが、まちなかを時計回りに1周約30分で回るルートとして、白根カルチャーセンターを起終点とし、12月7日から運行している。

能登や横町のバス停留所は、新潟交通の路線バスや区バスも運行しており、バス路線が重なるポイントであるため、乗換拠点として考えている。

バスセンターのような乗換拠点をつくるということは現時点では難しいため、当面はまちなか循環ルートの運行エリア全体を乗換え拠点と捉えて、社会実験をしている。

能登バス停留所等で路線バスからまちなか循環ルートに乗り換えて、病院や商業施設などいろいろ巡っていただき、帰りは、まちなか循環ルートから区バスや路線バスに乗り換えていただくような利用がされることを期待している。

- ・ 社会実験開始時に、全戸にチラシを入れ、周知を図ってきた。今後も区だより等を通じた周知に努め、まちなかでのバス結節などについて、今後の運行に資するデータを収集したいと考えている。

**(意見・質問) 斎藤委員**

- ・ 南区は軌道系の公共交通がないということだが、国道8号を走る路線バスで中心部まで行ける。この路線は、雪が降ったりすると渋滞等で時間がかかるため、国道8号の走行環境が良くなると、もっと利用が増えるのではないかと思うが。

**⇒ (回答) 南区地域課**

- ・ 国道8号バイパスが3分の2ほど供用開始したことで、大型トラック等が国道8号のまちなかを通る台数が激減しており、バイパスが全線開通すると、更に交通量も減ると思う。

バイパスの全線開通後、現行の国道8号の通行量を見たとうえで、国や警察などの協力をいただきながら、快適にバスに乗っていただけるような走行環境の改善に努めていきたいと考えている。

**⇒ (回答) 大勝委員**

- ・ 参考としてお話をさせていただく。国道8号のバス路線については、新潟市の交通計画の中でも幹線バス路線として取り組んでおり、県警の協力をいただいて、渋滞ポイントの信濃川大橋交差点の信制御号の見直し、その他、バス停上屋の整備、快速バスの運行やバスロケーションシステムの整備などを進めてきた。

**⇒ (回答) 都市政策課**

- ・ 白根方面は軌道系が無いということで、まだ社会実験ではあるが、金曜日の夜のみ、夜バスという遅い時間のバスを白根方面へ走らせている。

#### (意見・質問) 蝶名林委員

- ・ 循環ルートというのは、非常にルートを引きやすいが、ターゲットがぼやけてしまう。

例えば、北部ルートの第1便は、イオン白根店前に7時52分に到着するが、店は開いていないので、ここで降りる人いないのではないか。ターゲットが誰なのか分らない。

同じように、循環してマーケットシティ白根に戻ってくる時間は、9時8分で、まだ店が開いていないのではないか。

中央区を走っていた浜浦町や信濃町の循環線のように、ある程度の人口があれば循環線でも利用はあるが、人口が少ないと特定の区間で利用があっても、その他の区間は空車になってしまう。

循環だけではなく点と点を結んで、10時頃にマーケットシティに着く、イオンに着くというようなダイヤを組んで改善すれば、もう少し利用があるのではないか。

その他にも、白根・さつき野駅ルートの復路2便、3便は、南区役所に19時15分と20時19分に到着するが、区役所は開いていないのではないか。

交通事業者は、そのようなノウハウを持っているので、少しでも乗っていただくためには、線を引くだけでなく、どういうダイヤ編成をしたら良いか、交通事業者とご検討いただくのも一つの手ではないかと思う。

#### (意見・質問) 三五委員

- ・ 参考資料の区バス上半期利用者数で、大鷲ルートは小学生がマイナス742人、東部ルートは中高生でマイナス307人とあるが、何か原因があるか。

##### ⇒ (回答) 南区地域課

- ・ 毎日利用していた人が1人でも減ると、二百何十人分となり、そのような状況となる。

特に高校生には、電車やバスを使って通学していただきたいので、中学生のうちからチラシを配ったりして、高校生になっても区バスなどを使っただけできるよう、利用者の掘り起こしに努めているところである。

#### (意見・質問) 三五委員

- ・ 区バスを日曜日なども運行してほしいという意見要望等はないか。

##### ⇒ (回答) 南区地域課

- ・ 年に1回程度そのようなご意見がある。すべてのご要望にお応えしたいが、1人の方を乗せて、その後の運行が空車というわけにはいかないので、土曜、日曜日は、区バス以外の路線バスや乗合タクシー等の利用を皆様をお願いしている。

### ③採決

- ・ 出席者全員の賛成で、南区区バス運行計画(変更)、月潟地区住民バス運行計画(変更)、乗合タクシー運行計画(変更)を承認

## 5. その他

### (意見・質問) 三五委員

- ・ 交通事故防止について、ご協力をお願いしたい。

12月11日から12月20日までの間、冬の事故防止運動が実施されている。

配布した「平成26年版の高齢者事故及び高齢者加害事故」では、県内における高齢者の交通死亡事故の分析結果、それから県内における高齢者加害事故の分析結果が掲載されているが、今月、12月は高齢者の方の交通死亡事故が発生しやすい時期でもある。また、師走ということで、天気の悪い日も多く、なかなか忙しい時期だと思う。

車を運転される方にとっては、早めのライト点灯や思いやりを持った運転を心掛けていただくと共に、歩行者の方にとっては、運転手から発見しやすいような明るい服装をしていただく、また、反射材も活用していただきたい。道路を横断する際には、周囲をよく確認していただくなど、それぞれご注意いただくのが大事と思っている。

年末まであと幾日もないので、皆様方のご周囲の方にもお声掛けいただき、是非、交通事故が起こらないようにご留意いただければありがたいと思っていますので、一層ご協力をお願いしたい。

### (意見・質問) 松川委員

- ・ 寄居町の交差点から東中通にかけて、信号1区画だけ道路の舗装を直して、バス専用レーンが非常に見やすくなった。これを更に進め、降雪時でも専用レーンが分かるよう看板を増設し、バス専用レーンと優先レーンの運用の厳格化を是非お願いしたいと思う。

埼玉県の国道では朝9時まで完全専用レーンだが、警察が取り締まりをしているので、自動車は全く専用レーンを走っていない。

新潟市の公共交通に関するサイトで、西大通の専用レーンが全く守られていないという要望が載っていたが、警察と連携して運用を厳格化するとともに、PRと周知徹底が必要となる。

実際にBRTの専用レーンが完成した時のために、ドライバーに意識付けをすることを今から始めていただきたいと思っている。

- ・ バス停で案内をしている新潟交通の方に、とても丁寧なご説明をしていただいた。以前、バスの説明をするアテンダントの設置要望を新潟市へ提出したが、どんなにハードを進化させても、どこのバス停で何に乗り換えられるか分からない。新潟交通というよりも市からも予算を確保していただき、ソフト面での案内充実の強化をしていただきたい。
- ・ 一般の方に公共交通を利用していただくための策として、「まちなかバス乗車券」の協力店舗を増やしていただきたい。

「くるまでふるまち」は140店舗あるのに対して、「まちなかバス乗車券」の協力店舗は、20店舗であり、以前から増えていない。車で来てほしいのか、公共交通を使ってほしいのか。どっちに比重をかけているのか分からない。

今ある制度を再度点検と PR し、古町、本町のにぎわいをもう一度戻すという取り組みが、BRT の成功にもつながるのではないかと思う。

⇒ (回答) 都市政策課

- ・ 大いに参考にして、頑張りたいと思う。

(意見・質問) 村山委員

アテンダントのお話をいただいたが、9月から市内の路線も変わり、当初、路線が変わったことをよく分らない方もいたため、開業から11月頃までは、新潟駅前、万代、古町、市役所前、青山にアテンダントを配置していた。

新潟駅前は、常に外来の方が来られるポイントなので、24時間とはいかないが、日中の時間帯に案内をする体制をとっている。

新潟駅前のアテンダントは、出張やご旅行の方、初めて新潟にお越しいただく方から、良い評価をいただいていると思っており、当面続けていく予定である。

(意見・質問) 鈴木委員

- ・ ライドシェアを活用してはどうかという動きがあるが、タクシー協会としては、それに歯止めをかけなければいけないと考えているので、新潟県内の自治体へ要請をしていく予定である。
- ・ 青ナンバー（事業用自動車）は事故が少なく、公共交通として育てていくことが市民のためにもいいという理念から、新潟市は、区バス・住民バス事業に、タクシーを含めて事業用自動車を使っている。
- ・ バスを利用していただければ、時間が遅くなったり雨が降ったりすると、タクシーにも乗っていただけるので、「まちなかバス乗車券」に取り組んでいただきたい。

(意見・質問) 斎藤委員

- ・ 新潟市内は、ノンステップバスが非常に多く走っているが、配電盤が出ていたりして、バスを歩道にしっかりと寄せられないため、一度車道に降りてバスに乗るといった状況になり、高齢者に非常に優しくない環境がある。

これから増えてくる高齢者の方がスムーズに乗れるように、バスが歩道にしっかりと寄せられるような走行環境を作っていただけたらと思う。

⇒ (回答) 大沢委員

- ・ 道路管理者、交通管理者、実際に運転される運転手の方々に、現地確認をし、一番良い方法で取り組んでいければと思っている。

6. 傍聴者 1名